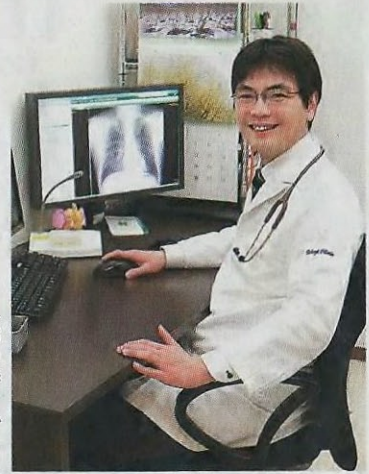


たかぎ  
クリニック  
名東区



「近所のスーパーで『先生 こんにちは』と声をかけてもらえるのがうれしい」と話す高木院長

町の  
お医者さん

幼いころ、歯科医をしていた父親が、町を歩く際に「先生、こんにちは」「いつもお世話になってます」と声をかけられていた。笑顔で応える父の姿を見て「人がありがとって言うてくれる、人の役に立つ仕事っていいなあと思ったのが、今にして思えば医師を日指すきっかけだったのかもしれない」と、「たかぎクリニック」の高木英樹院長は話す。

2011年9月に名古屋市中名東区に同クリニックを開院する際に始めたのが「日曜診療」。開業医の大半が日曜・祝日は休診、診察を必要とする人は病院の救急外来に駆け込む。だが、具合が悪くなるのに曜日は関係ない。また、気になる症状があっても多忙で平日に来院できない人もいる。患者の「ありがと」という声を支えに「本当に必要なことで、他の人がやらないうらいなら自分がやる」という強い決意が感じられる。高木院長には3人の子どもがいる。共働きの高木家にとって、子どもの具合が

誰もやらないなら自分がやる  
患者さんの「ありがとう」支えに

悪い時にどうやって面倒を見るかというのは切実な問題だった。「わが家がこんなに困っているなら、きっと他の家庭でも困っているはず」と、同区で初めての病児保育室開設を決意。クリニックの2階で病児保育を始めたのが、開院2年目のこと。

これも「誰もやらないなら自分がやろう」という院長の考えから生まれた。今では働くお母さんにとってもなくてはならないものとなっており、同区だけでなく、長久手市からも委託を受けて運営の範囲を広げている。

内科・小児科と糖尿病診療を専門としている同クリニックだが、高木院長は「町のかかりつけ医として、総合診療が大切だと思う」と持論を述べる。「患者さんの訴えの大半は私のような総合診療医での対応が可能です。そういう患者さんの

診察をしつかりして、専門医療が必要な際には、適切な医療機関を紹介する。それがかかりつけ医としての使命だと思っています」。

「私は病気を見ているのではなく、患者さんを診ている」と言い切る高木院長。患者が少しでも良くなるためなら手間暇を惜しまない。「特に目立った疾患がなくても身体がだるいとか重いと感ずることは誰にでもあります。病気がないよ、と言ってあげることも大事だけど、漢方薬などを使用して自覚症状を軽減させることもできるんです」と熱く語る。



たかぎクリニック外観

日々の外来診療、午後の往診はじめ、病児保育での預かり児の診察、クリニックと保育室の運営の舵取りなど、高木院長の毎日忙しい。その合間を縫って勉強会に参加したり自身で気になることを調べたりして研さんを積んでいる。「根っからの医療好きなんです」と笑うが、家庭人としての自分も忘れていない。家に帰れば共働きの妻を助け家事を手伝うよき夫でもある。

● たかぎクリニック 名古屋市中名東区石が根町98、電話052・774・552。

**略歴**

1976年小牧市生まれ。2002年名古屋大学医学部卒。土岐市立総合病院、医療法人めぐみ会(東京都)などでの勤務を経て、11年たかぎクリニック開院。